

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	17-042	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and risk of urothelial cell bladder cancer in the European prospective investigation into cancer and nutrition cohort. 癌と栄養に関するヨーロッパ前向きコホートにおける、飲酒と尿路上皮細胞膀胱癌のリスク		
執筆者		
Botteri E, Ferrari P, Roswall N, et al.		
掲載誌		
Int J Cancer. 2017 Nov 15;141(10):1963-1970. doi: 10.1002/ijc.30894. Epub 2017 Jul 31.		
キーワード	PMID	
飲酒、膀胱癌、喫煙	28722206	
要 旨		
目的： 飲酒と膀胱がんの関連についての報告は一貫していない。筆者らはヨーロッパの癌と栄養の前向き調査によってその関連を調べた。		
方法： 対象は10か国からなるコホート参加者476,160人(35-70歳が殆ど)で、平均追跡期間は13.9年間だった。尿路上皮細胞癌(UCC, 1,802例)の発症ハザード比(HR)をCoxハザードモデルで算出した。飲酒はベースライン時点時と生涯平均の飲酒量について、また飲料の種類(ビール・ワイン・スピリッツ)についても検討した。		
結果： ベースライン時点の飲酒量は、統計学的に有意ではないがUCCリスク上昇と関連していた(アルコール摂取12g/日あたりHR1.03; 95%CI 1.00-1.06)。喫煙者でのHRは1.04(95%CI 1.01-1.07)であった。研究開始時の多量飲酒(>96g/日)を報告した男性は中等量飲酒(<6g/日)と比べUCCのリスクが高かった(HR1.57; 95%CI 1.03-2.40)が、アルコールとUCCリスクにおける量反応関係は明らかではなかった。男性では、より少ない量(6-24g/日)においても進行性UCCのリスク上昇との関連が見られた。生涯平均飲酒量とUCCリスクとの関連は見られなかったが、男性と喫煙者においては24g/日を超える蒸留酒摂取は中等量飲酒者に比べてUCCリスク上昇と関連していた(各HR1.38; 95%CI 1.01-1.91、HR1.39; 95%CI 1.01-1.92)。女性と非喫煙者においては飲酒とUCCに関連を認めなかった。		
結論： 男性と喫煙者において飲酒とUCCとの(正の)関連を認めたが、これは喫煙による残存交絡の可能性がある。		